

箱根山の火山活動解説資料（平成 28 年 2 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

大涌谷周辺での噴気の高さは概ね 600m 以下で経過しています。

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

GNSS¹⁾連続観測並びに気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計²⁾や体積ひずみ計³⁾では、特段の変動はみられていません。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、噴気活動が活発なところがあります。18 日に実施した現地調査では、これまでの現地調査と同様に 15-1 火口及び 15-2～4 の各噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しているのを確認しました。

大涌谷周辺の想定火口域では、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

- ・地震や微動の発生状況（図 3 - 、図 4）

今期間、火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図 2、図 3 - ～ ）

GNSS¹⁾連続観測並びに気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計及び気象庁の湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では、特段の変動はみられていません。

- ・火山ガスの状況

18 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 40 トンと前回（2015 年 9 月 3 日：100 トン）と比べて減少しています。

- ・噴気などの表面現象の状況（図 3 - 、図 5～6、図 8～9）

大涌谷周辺での噴気の高さは概ね 600m 以下で経過しています。

大涌谷に設置している遠望カメラによる観測では、15-1 火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しているのを確認しています。

18 日に実施した現地調査では、これまでの現地調査と同様に 15-1 火口及び 15-2～4 の各噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しているのを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、15-1 火口の東側の高温領域⁴⁾を引き続き確認しました。地表面温度分布の状況等に変化はありませんでした。

なお、宮城野遠望カメラ（大涌谷の東北東約 3 km）による観測では、早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは 100m 以下で経過しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 3 月分）は平成 28 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 50 m メッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

- 1) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1マイクロラジアンは1km先が1mm上下するような変化量です。
- 3) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等で変化が観測されることがあります。
- 4) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する機器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の温度よりも低く測定される場合があります。

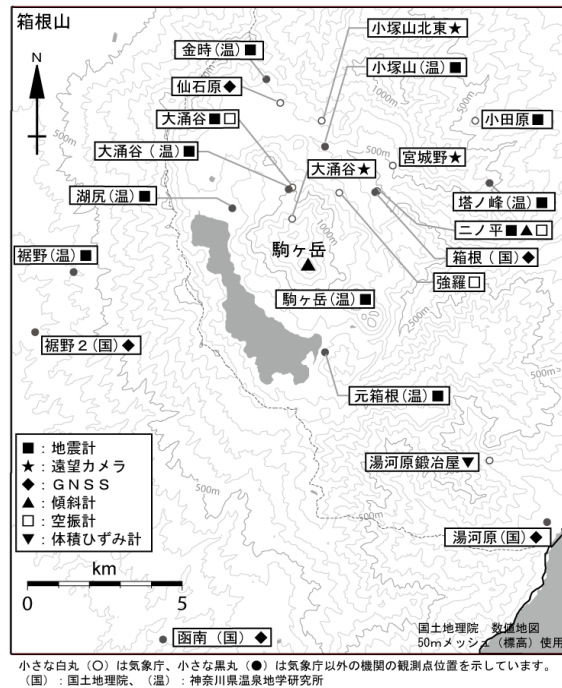


図1 箱根山 観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の観測点を示しています。
- （国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所

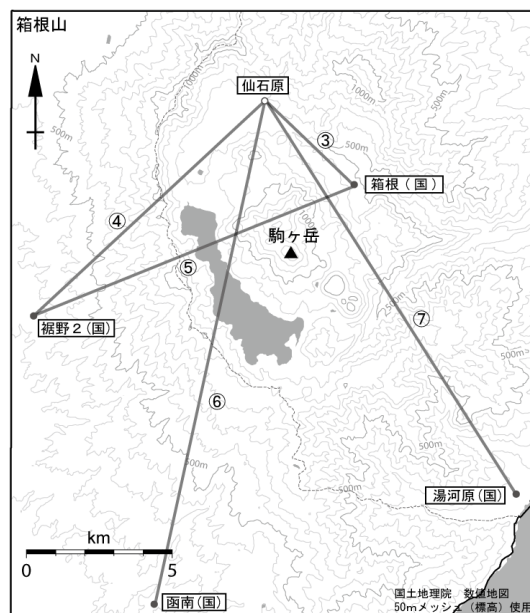


図2 箱根山 GNSS 連続観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の観測点を示しています。（国）：国土地理院
- ・GNSS 基線 ~ は図3の ~ に対応しています。

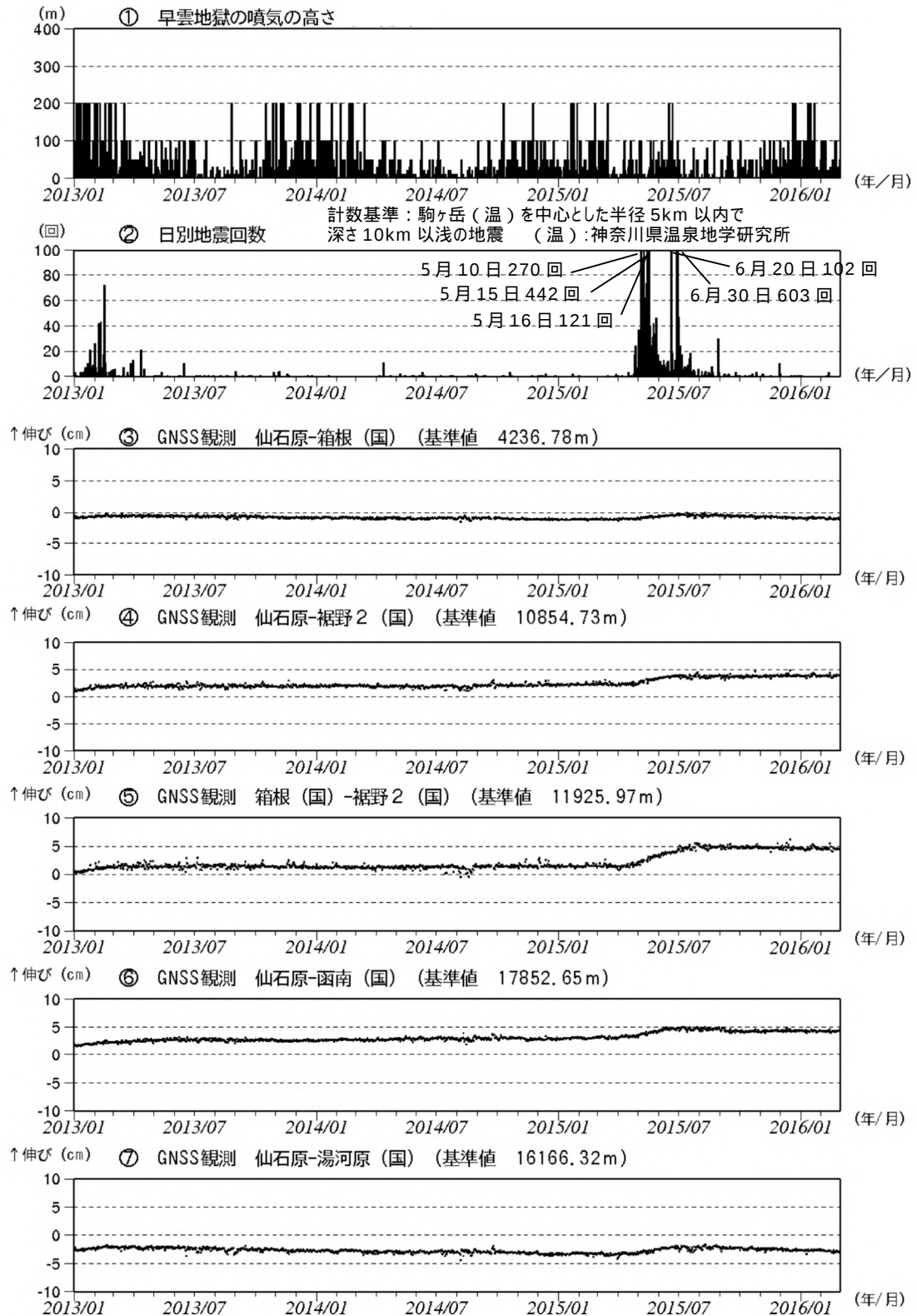


図3 箱根山 火山活動経過図（2013年1月1日～2016年2月29日）

遠望カメラによる噴気の高さ 噴気の高さは定時観測（09時・15時）の日最大値です。

～ GNSS連続観測による基線長変化 図2のGNSS基線 ～ に対応。解析に際しては対流圏補正と電離層補正を行っています。

- ・今期間、火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
- ・2015年4月から箱根山周辺の基線で山体の膨張を示す地殻変動がみられていましたが、8月下旬頃からは停滞しています。

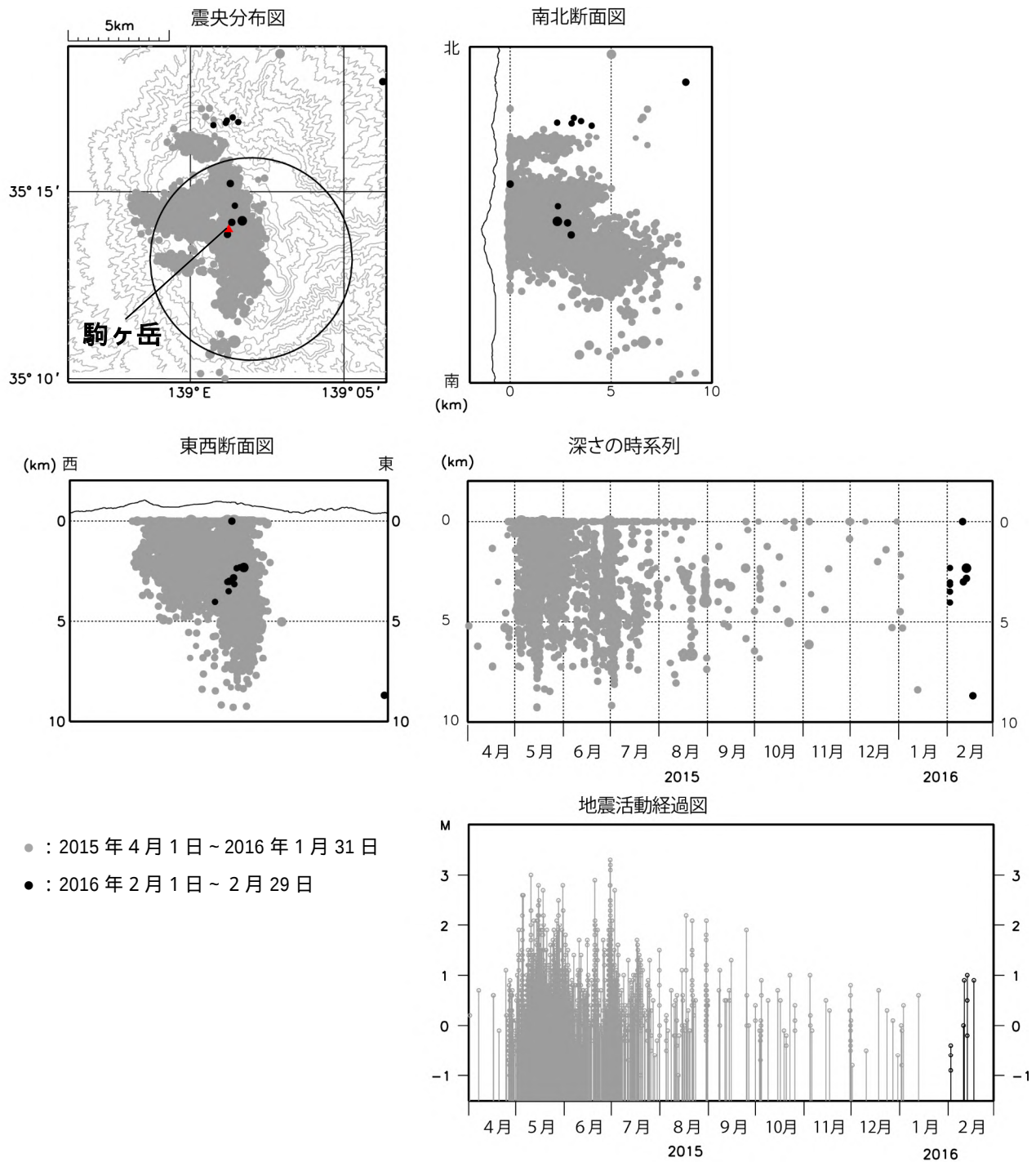


図 4 箱根山 広域地震観測網による山体周辺の震源分布図(2015 年 4 月 1 日 ~ 2016 年 2 月 29 日)

・ M (マグニチュード) は地震の規模を表しています。図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。震央分布図の円は、駒ヶ岳観測点(温)を中心とした半径 5 km の範囲を示しています。



図 5 箱根山 大涌谷の状況

（ 2 月 10 日、大涌谷遠望カメラによる ）

- ・ 15-1 火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設から引き続き噴気が勢いよく噴出しています。



図 6 箱根山 早雲地獄の状況

（ 2 月 10 日、宮城野遠望カメラによる ）

- ・ 白円内は早雲地獄からの噴気の状況。
- ・ 赤円内は大涌谷からの噴気によるもので、引き続き時々観測しています。気象庁の宮城野遠望カメラでは、大涌谷からの噴気は高さ概ね 100m 以上の場合に観測されます。



図 7 箱根山 噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図

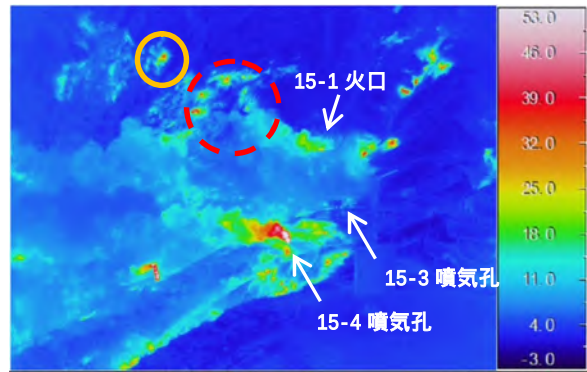
赤丸は宮城野遠望カメラ設置場所

緑丸は大涌谷遠望カメラ設置場所及び図 8 ～ 9 の撮影場所

赤矢印はそれぞれの撮影方向



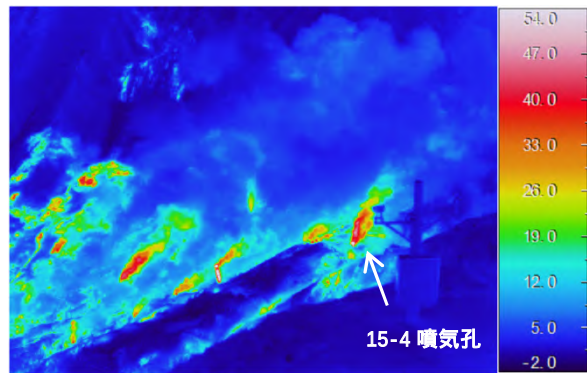
2016 年 2 月 18 日 13 時 30 分（可視）



2016 年 2 月 18 日 13 時 30 分（赤外）撮影



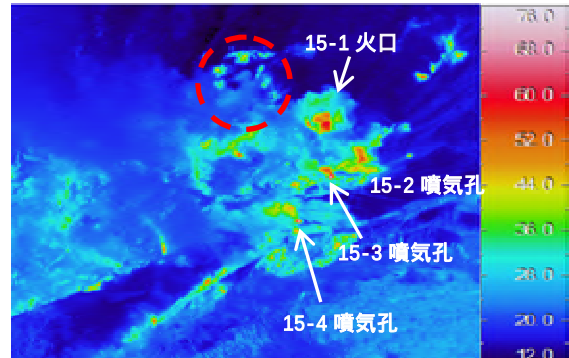
2016 年 1 月 15 日 11 時 00 分（可視）



2016 年 1 月 15 日 11 時 00 分（赤外）撮影



2015 年 10 月 9 日 09 時 07 分（可視）



2015 年 10 月 9 日 09 時 13 分（赤外）撮影

図 8 箱根山 大涌谷周辺の状況及び地表面温度分布

- ・ 18 日に実施した現地調査では、これまでの現地調査と同様に噴気が勢いよく噴出しているのを確認しました。
- ・ これまでの現地調査で確認された 15-1 火口東側斜面の高温領域（赤円）は変化なく継続していることを確認しました。
- ・ 上記高温領域の東の弱い噴気孔（黄円）の温度が若干上がっているのを確認しました。



2016 年 2 月 18 日 13 時 38 分撮影



2016 年 1 月 15 日 11 時 19 分撮影



2015 年 12 月 7 日 13 時 09 分撮影



2015 年 11 月 20 日 11 時 19 分撮影



2016 年 2 月 18 日 13 時 44 分撮影



2016 年 1 月 15 日 11 時 07 分撮影



2015 年 12 月 9 日 12 時 12 分撮影



2015 年 11 月 20 日 11 時 14 分撮影

図 9 箱根山 大涌谷の火口及び噴気孔の状況

- ・ 18 日に実施した現地調査では、15-1 火口の形状に特段の変化は認められませんでした。火口の周囲が黒っぽく変色しているのを確認しました（赤点線）。湿った状態になっていると考えられますがその原因は不明です。15-4 噴気孔（赤円）周辺では、硫黄と思われる黄色の付着物を引き続き確認しました。